

## 当院外来採血室での患者緊急時対応の取り組み-第2報

### COVID-19 対応下での教育訓練の取り組み

◎坂井 範子<sup>1)</sup>、米山 里香<sup>1)</sup>、鈴木 光一<sup>1)</sup>、浅野 紀子<sup>1)</sup>、松浦 智朗<sup>1)</sup>、繁田 佳緒理<sup>1)</sup>、水川 恵美子<sup>1)</sup>、関口 久美子<sup>1)</sup>  
杏林大学医学部付属病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院の外来採血室における教育訓練とその効果について報告する。

【背景】当院外来採血室は臨床検査技師のみで運営しており、常駐の看護師は配置されていない。

年間約 18 万人の外来採血患者のうち血管迷走神経反射 (VVR) など約 40 人の緊急対応患者が発生している。緊急時には臨床検査技師が対応し、別室の生理機能検査室の常駐看護師に応援要請を行っている。患者急変時対応は医療安全マニュアルの「患者等容態急変・急病時の対応」「迅速対応システム；RRS」に示されており周知教育が実施されている。

前回の発表では、これらの対応基準に基づく採血室独自のフローチャートを利用したチェックシートを作成し、患者緊急時対応シミュレーションを実施した成果を報告した。今回は、採血担当技師が兼任も含めて 54 名から 65 名へ増加したことを機に、新たな教育訓練を開始した。

【方法】1. 臨床検査部全員を対象に患者緊急時対応の教育資料をオンラインで周知教育を行った。

2. 採血担当技師 65 名に対し下記の通り患者緊急時対応訓練を行った。

- 1) 訓練担当の採血専任技師へ訓練内容を統一化
- 2) 救命関連機材の保管場所の確認
- 3) チェックシート運用法および RRS 起動基準の確認
- 4) 患者急変時のシミュレーション訓練
- 5) 看護師への申し送りのためのチェックシートの記入

3. 対象者に患者緊急時対応訓練についてのアンケートを実施した。

【結果とまとめ】COVID-19 対応の下、多人数での講習会や訓練は実施できなかったが、オンラインを活用した全体教育と、少人数での患者緊急時対応訓練により、一定の教育効果が見られたことがアンケートにより示された。特にシミュレーションを行うことにより実際の患者対応の流れが周知され、RRS 起動基準を理解し、バイタルサインを正しく測定出来るようになったことは有意義であった。詳細については発表時に提示したい。

連絡先 0422-47-5511(内線 2812)